

逗子市 橋りょう長寿命化修繕計画 (橋りょう個別施設計画)



(平成 25 年 3 月 策定)

(平成 31 年 3 月 改定)

(令和 5 年 3 月 一部改定)

(令和 6 年 3 月 改定)

令和 7 年 8 月 一部改定



逗子市

目 次

1. 長寿命化修繕計画の目的	1 頁
2. 長寿命化修繕計画の対象橋りょう	2 頁
3. 健全性の把握及び日常的な維持管理に関する基本的な方針	3 頁
4. 老朽化対策における基本方針	4 頁
5. 対象橋りょうの次回点検時期及び修繕内容・時期	7 頁
6. 長寿命化修繕計画による効果	8 頁
7. 新技術等の活用方針と費用縮減に関する具体的な方針	9 頁
8. 計画策定担当部署および意見聴取した学識経験者等の専門知識を有する者	9 頁

【別紙 1】 個別の構造物ごとの事項

1. 長寿命化修繕計画の目的

1) 背景

本市の市道では、令和6年3月現在、58橋の橋りょうを管理しています。これらの多くは、高度経済成長期に集中的に整備されたため、今後、建設50年を経過する高齢橋の割合が急速に増加し、老朽化による修繕費用や架替え費用が増大することが予想されます。

このため、平成25年3月に、点検が完了した橋長が15m以上の14橋について、橋りょう長寿命化修繕計画を策定し適切な維持管理を実施しています。

その後、平成27年度から平成29年度に近接目視による定期点検を実施し、平成31年3月に橋りょう長寿命化修繕計画を改定しました。

令和5年3月には、新技術等の活用を促進するとともに、維持管理コストの縮減を図ることを目的とし、橋りょう長寿命化修繕計画を一部改定しました。

本計画は、令和2年度から令和4年度に行った定期点検の結果を踏まえて、橋りょう長寿命化修繕計画を改定するものです。

表1-1 橋りょう長寿命化修繕計画の策定経緯

年版	備考
平成25年3月	策定
平成31年3月	改定
令和5年3月	一部改定（新技術等の活用方針を追加）
令和6年3月	改定（本計画）
令和7年8月	一部改定 （集約化・撤去の短期的な数値目標を改定）

2) 目的

橋りょうの中長期的な維持管理等に係るトータルコストを縮減し、予算を平準化していくためには、インフラの長寿命化を図り、大規模な修繕をできるだけ回避することが重要です。このため、橋りょうの特性を考慮し、安全性や経済性を踏まえつつ、損傷が軽微である早期段階に予防的な修繕等を実施することで機能の保持・回復を図る「予防保全型維持管理」を着実にを行うため、長寿命化修繕計画を策定します。

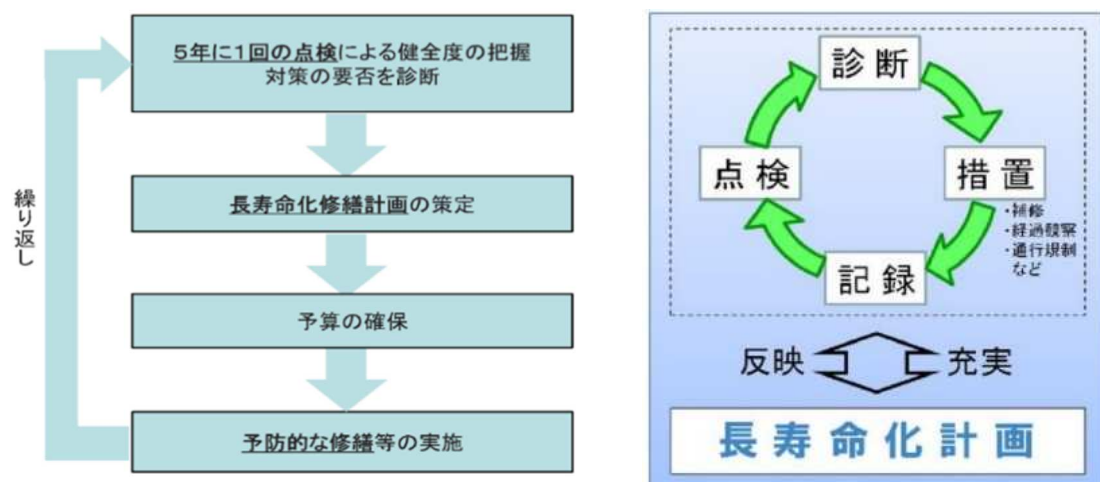


図 1－1 点検・診断における評価の流れ

※出典：道路のメンテナンスサイクルの構築に向けて／平成 25 年 6 月
／社会資本整備審議会 道路分科会 道路メンテナンス技術小委員会

2. 長寿命化修繕計画の対象橋りょう

長寿命化修繕計画の対象橋りょうは、表 2－1 の通りとします。

表 2－1 長寿命化修繕計画の対象橋りょう

	緊急輸送 道路	幹線道路	その他	合計
平成 25 年 3 月 策定	0	6	8	14
平成 31 年 3 月 改定	0	10	48	58
令和 5 年 3 月 一部改定	0	10	48	58
令和 6 年 3 月 改定	0	10	48	58
令和 7 年 8 月 一部改定	0	10	48	58

※幹線道路は、幹線 1 級市道及び幹線 2 級市道とする。

3. 健全性の把握及び日常的な維持管理に関する基本的な方針

1) 健全性の把握

本市では、令和2年度から令和4年度に58橋の定期点検を実施しました。定期点検の結果は、平成26年7月の「道路法施行規則の一部を改正する省令」及び「トンネル等の健全性の診断結果の分類に関する告示」により、表3-1に示す区分に分類しています。

表3-1 健全性の診断結果

区分		状 態
I	健全	構造物の機能に支障が生じていない状態。
II	予防保全段階	構造物の機能に支障が生じていないが、予防保全の観点から措置を講ずることが望ましい状態。
III	早期措置段階	構造物の機能に支障が生じる可能性があり、早期に措置を講ずべき状態。
IV	緊急措置段階	構造物の機能に支障が生じている、又は生じる可能性が著しく高く、緊急に措置を講ずべき状態。

2) 日常的な維持管理に関する基本的な方針

橋りょうを良好な状態に保つため、日常的な維持管理として、パトロール、清掃などの実施を徹底します。

なお、地震及び集中豪雨が発生した場合は、橋りょうの状態を確認するために行う臨時点検などを実施します。

4. 老朽化対策における基本方針

1) 管理水準

橋梁長寿命化修繕計画基本方針 令和5年4月 公益財団法人神奈川県都市整備技術センター（以下「基本方針」という。）により、健全性Ⅰを管理水準とします。よって、修繕した橋りょうは、健全性Ⅰに回復させます。

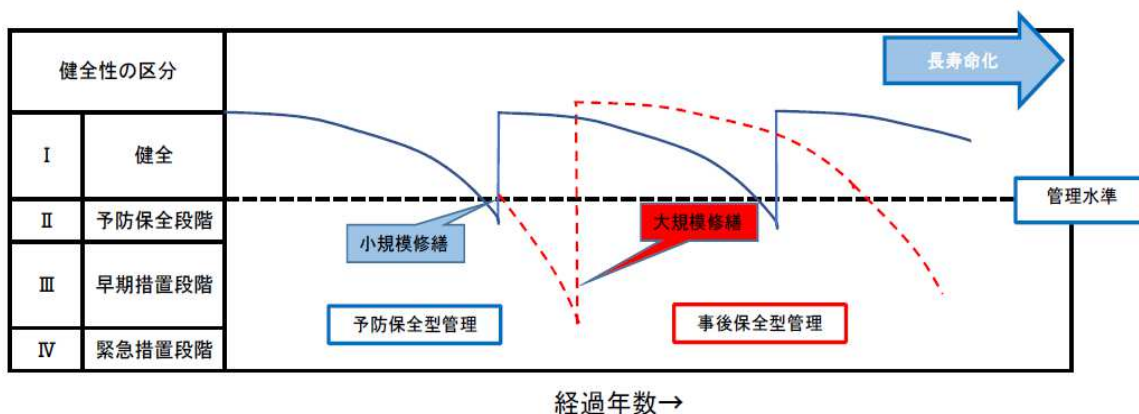


図4-1 管理水準

2) 管理方針

橋りょうは、「予防保全型」の管理を基本とし、健全性Ⅱで対策します。ただし、溝橋や第三者被害のおそれの無い単径間の床版橋等で、構造特性や周辺状況により、大規模修繕を行う際の社会的影響が小さいと判断した橋りょうについては「事後保全型」の管理とします。事後保全型は、健全性Ⅲで対策します。表4-1に予防保全型の管理方針、表4-2に事後保全型の管理方針を示します。

表4-1 予防保全型の管理方針

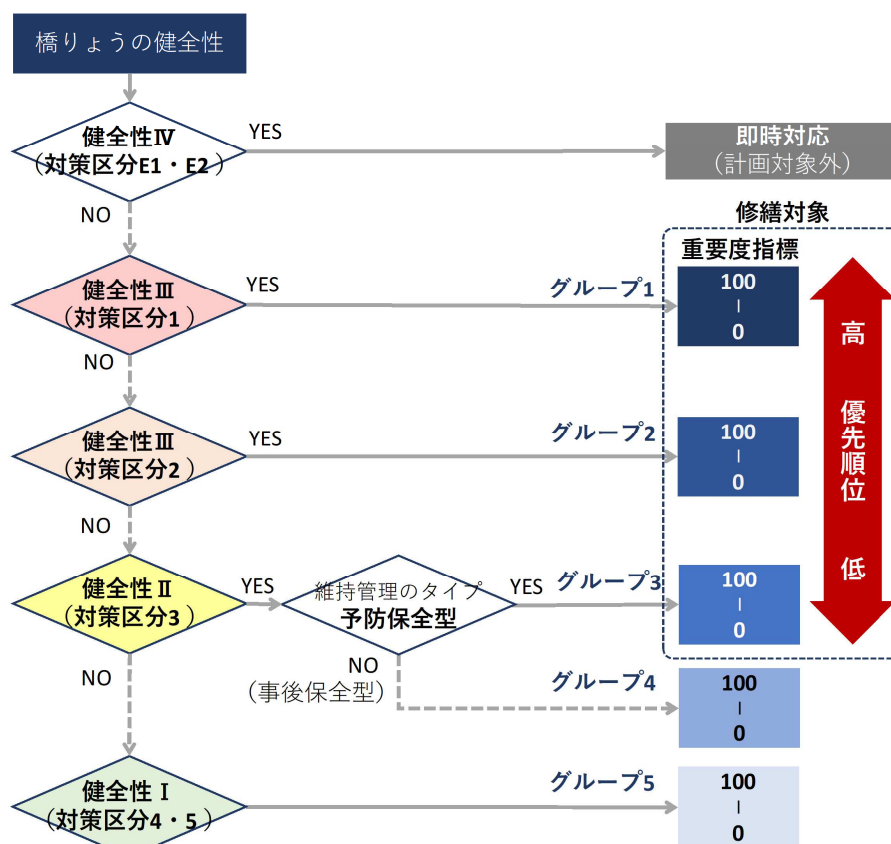
健全性の区分		管理方針	修繕優先度
Ⅰ	健全	健全な状態であるため、修繕の対象外とします。	(低い) (高い)
Ⅱ	予防保全段階	<u>予防保全の観点から、予算の範囲内で必要な対策を計画的に実施します。</u>	
Ⅲ	早期措置段階	5年以内に優先して修繕を実施することを基本とします。	
Ⅳ	緊急措置段階	緊急措置が必要な状態であるため、本計画の対象外とします。	

表 4—2 事後保全型の管理方針

健全性の区分		管理方針	修繕優先度
I	健全	健全な状態であるため、修繕の対象外とします。	(低い)  (高い)
II	予防保全段階	<u>修繕の対象外とします。</u>	
III	早期措置段階	5年以内に優先して修繕を実施することを基本とします。	
IV	緊急措置段階	緊急措置が必要な状態であるため、本計画の対象外とします。	

3) 修繕の優先順位に関する基本的な方針

優先順位を明確にして、予算を平準化するために優先順位を設定します。優先順位は、橋りょうの健全性と重要度指標により、図 4—2 の通りとします。



重要度指標：利用者、第三者、管理者の視点により重要度を点数で評価したもの

図 4—2 修繕の優先順位

4) 対象橋りょうの長寿命化及び修繕に係る費用の縮減に関する基本的な方針

予防的な修繕等の実施を基本とすることにより、修繕等に係る費用の低コスト化を図り、トータルとしてのライフサイクルコストの低減を目指します。

また、PDCAサイクルを確実に実行することで、計画的な維持管理を実施していくこととします。

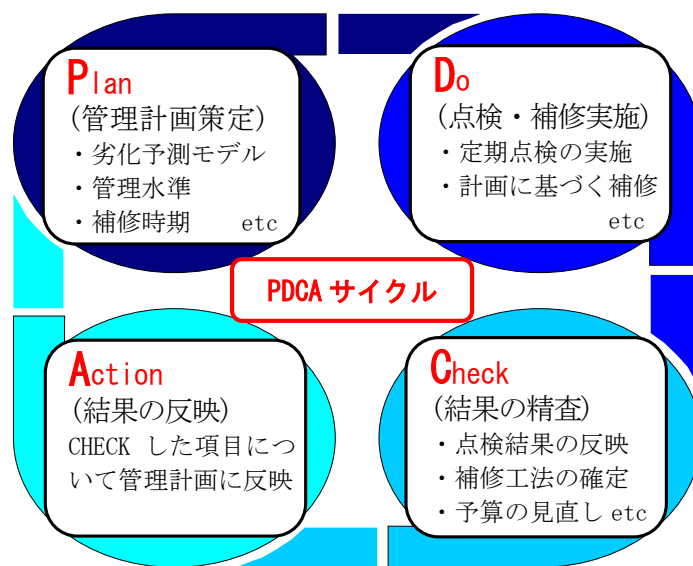


図 4－3 PDCAサイクルの流れ

※計画的な維持管理を実施するため、橋りょうに関する「橋りょう諸元」や「定期点検結果」、「修繕履歴」等のデータ蓄積が必要となります。

そのため、橋りょうの定期点検結果や修繕履歴等を蓄積し、検証することにより、橋りょうの健全度評価や部材耐用年数及び劣化予測式を見直し、効率的な維持管理を実施します。

5. 対象橋りょうの次回点検時期及び修繕内容・時期

本計画における計画期間については、5年に1回の定期点検サイクルを踏まえ5年間（2024年度～2028年度）とします。次回点検時期は別紙1に示します。

1) 橋りょうの点検状況



写真5－1 橋りょう点検状況

2) 橋りょうの修繕内容・時期

橋りょうの修繕内容及び時期については、最新の点検結果に基づき橋りょうの健全性及び第三者への被害予防などを考慮し、計画的に決定します。

なお、橋りょうの状態や修繕内容及び時期については、別紙1に示します。

表6－1 代表的な修繕工法の事例

修繕工法	概 要
塗装塗替工	鋼部材の錆をケレンにより取り除き、再塗装を行い鋼材部の防食機能の維持と美観の回復を目的として行う。
ひび割れ注入工	コンクリート部材に生じたひび割れ箇所に、注入材料を注入する工法で、コンクリートの一体性を確保することを目的として行う。また、鉄筋コンクリート工における鉄筋の防錆対策としても用いられる。

6. 長寿命化修繕計画による効果

58橋の橋りょうの修繕などに要する費用は、劣化や損傷が軽微なうちに修繕を行う「予防保全型※」と劣化や損傷が深刻化してから大規模な修繕を行う「事後保全型」の維持管理を実施した場合とで比較しました。

今後50年間のシミュレーションの結果では「事後保全型」は10.2億円の経費となり、「予防保全型※」では7.8億円の経費となりました。「予防保全型※」の維持管理をすることにより、約23%のコスト縮減効果（差額約2.3億円）が見込まれます。

※別紙1に示す管理方針

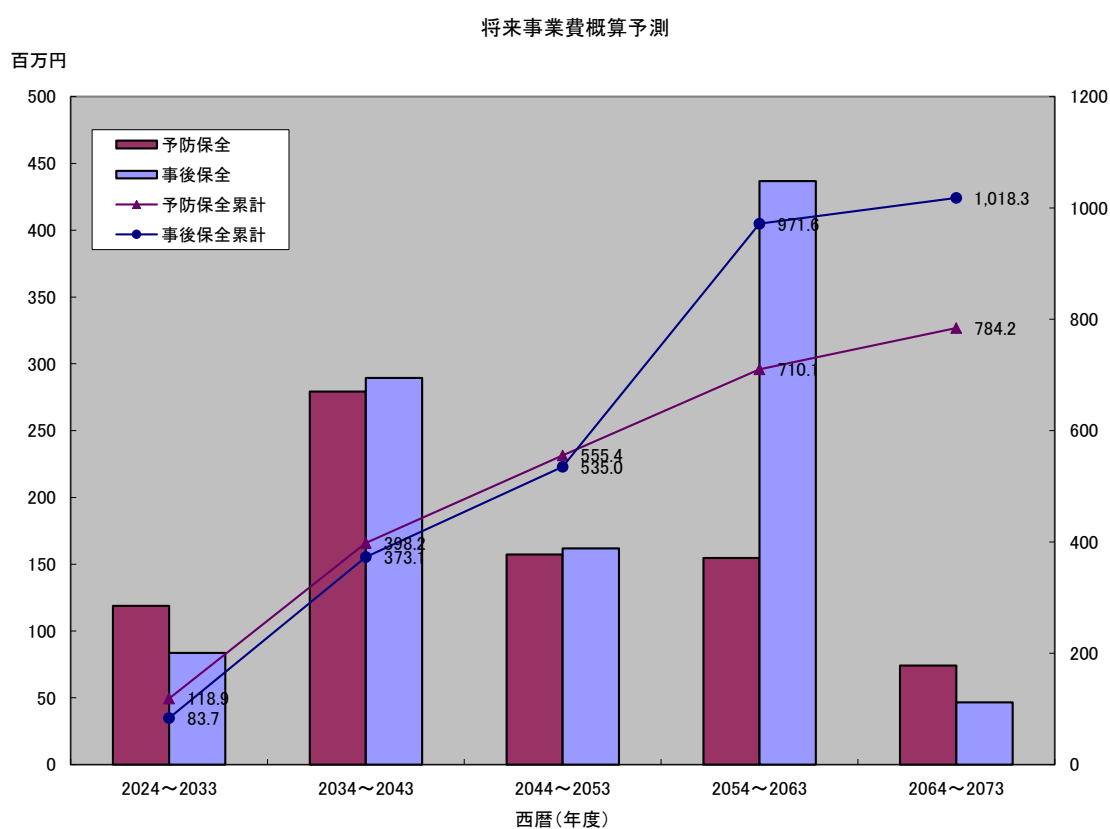


図6-1 50年間の維持管理・更新費の比較試算結果

※上記経費の算出については、今後、橋りょうの定期点検データを蓄積していくことで、さらなる精度向上が図れるため、現在の値に固定化されるものではありません。

7. 新技術等の活用方針と費用縮減に関する具体的な方針

修繕や点検などの事業の実施にあたっては、新技術情報提供システム（NETIS）及び点検支援技術性能カタログより、新技術等の活用を検討し、コスト縮減や事業の効率化を図ります。2024年度（令和6年度）～2028年度（令和10年度）の5年間に於ける方針は、表7-1の通りとします。

表7-1 新技術等の活用方針と費用縮減に関する具体的な方針

	具体的な方針	短期的な数値目標	コスト縮減効果
修繕	新工法や新材料などを加えた比較検討を実施し、最適な修繕工法を選定します。	修繕対象施設の1橋で、新技術の活用を目指します。	新技術の活用により、240万円程度のコスト縮減を目指します。
点検	コスト縮減や、点検の効率化を図るため、橋梁点検支援ロボット等の新技術の活用を検討します。	点検対象施設の1橋で、新技術の活用を目指します。	新技術の活用により、6万円程度のコスト縮減を目指します。
集約化・撤去	損傷が著しく、利用状況が無いまたは極めて限定的である橋りょうについては、集約化・撤去の検討を行います。	利用状況が限定的と思われる橋梁についても、特定の利用者が存在していること及び迂回路が無いことから、集約化・撤去が困難であるため、本計画策定期間内では集約化・撤去は行いません。 次回の計画策定時に、利用状況の変化や点検結果を踏まえて再検討します。	—

8. 計画策定担当部署および意見聴取した学識経験者等の専門知識を有する者

1) 計画策定担当部署

逗子市 都市整備課 tel：046-873-1111（代表）

2) 意見を聴取した学識経験者等の専門知識を有する者

関東学院大学 理工学部 出雲 淳一 教授

横浜国立大学 大学院 都市イノベーション研究院 勝地 弘 教授

個別の構造物ごとの事項

NO.	構造物の諸元				直近の点検結果		管理方針	次回点検年度	2024年度～2028年度の対策内容
	橋りょう名	橋長(m)	橋梁形式	竣工年	点検年度	健全性 (対策区分)			
1	ぼんばた橋	17.70	鋼橋	1964	2020	I (5)	予防保全型	2024	
2	入会橋	10.00	PC橋	1991	2020	II (3)	予防保全型	2024	橋台（ひび割れ注入工、断面修復工）
3	東郷橋	9.40	RC橋	不明	2020	I (5)	予防保全型	2024	
4	富士見橋	35.10	PC橋	1989	2020	II (3)	予防保全型	2024	主桁・床版・橋台・橋脚（ひび割れ注入工、断面修復工、床版防水工）
5	仲町橋	17.46	PC橋	1990	2020	I (4)	予防保全型	2024	
6	清水橋	19.10	鋼橋	1983	2021	II (3)	予防保全型	2026	主桁（塗装塗替え工）
7	柳原橋	10.55	PC橋	1975	2021	I (4)	事後保全型	2026	
8	中原橋	6.70	RC橋	1940	2021	I (4)	予防保全型	2026	
9	沼間東歩道橋	34.01	鋼橋	1984	2021	I (4)	予防保全型	2026	
10	逗子インターチェンジ第1歩道橋	44.00	PC橋	1981	2017	I (5)	予防保全型	2024	
11	アーデンプリッジ	132.00	鋼橋	1986	2021	II (3)	予防保全型	2026	主桁（塗装塗替え工）
12	米軍橋	12.90	PC橋	不明	2021	I (4)	事後保全型	2026	
13	中原側道橋（1）	9.20	鋼橋	1998	2021	I (4)	予防保全型	2026	
14	中原側道橋（2）	10.20	鋼橋	1998	2021	I (4)	予防保全型	2026	
15	常盤橋	7.35	RC橋	不明	2021	I (4)	予防保全型	2026	
16	水上橋	5.35	PC橋	1964	2021	I (4)	予防保全型	2026	
17	滝合橋	3.80	RC橋	不明	2021	I (5)	予防保全型	2026	
18	大畑橋	4.00	RC橋	不明	2021	II (3)	事後保全型	2026	
19	鴻渡里橋	3.95	RC橋	不明	2021	I (4)	事後保全型	2026	
20	宮前橋	6.60	PC橋	不明	2021	I (4)	事後保全型	2026	
21	丸川橋	3.80	RC橋	不明	2021	I (4)	予防保全型	2026	

個別の構造物ごとの事項

NO.	構造物の諸元				直近の点検結果		管理方針	次回点検年度	2024年度～2028年度の対策内容
	橋りょう名	橋長(m)	橋梁形式	竣工年	点検年度	健全性 (対策区分)			
22	御縄橋	6.80	PC橋	不明	2021	I (5)	予防保全型	2026	
23	御縄川橋	8.00	溝橋	1975	2021	II (3)	予防保全型	2026	橋脚（ひび割れ注入工、断面修復工）
24	新宿橋	8.00	溝橋	1974	2021	I (4)	予防保全型	2026	
25	川間橋	13.00	PC橋	1965	2021	I (4)	事後保全型	2026	
26	烏川橋	14.50	PC橋	1979	2021	II (3)	事後保全型	2026	
27	向原橋	10.85	PC橋	不明	2021	I (4)	事後保全型	2026	
28	東橋	10.50	PC橋	1981	2021	I (4)	事後保全型	2026	
29	川端橋	10.00	PC橋	1982	2021	I (4)	事後保全型	2026	
30	神武寺橋	8.80	PC橋	1984	2021	I (4)	予防保全型	2026	
31	矢ノ根橋	7.30	PC橋	1962	2021	I (4)	事後保全型	2026	
32	門前橋	7.80	RC橋	不明	2021	I (5)	事後保全型	2026	
33	谷の空橋	10.20	RC橋	不明	2021	II (3)	事後保全型	2026	
34	馬場橋	10.90	PC橋	不明	2021	I (4)	事後保全型	2026	
35	法勝寺橋	9.00	RC橋	不明	2021	I (4)	事後保全型	2026	
36	武道橋	4.20	PC橋	不明	2021	I (4)	事後保全型	2026	
37	上の橋	5.60	RC橋	1951	2021	I (4)	予防保全型	2026	
38	笹山橋	5.50	RC橋	不明	2021	II (3)	事後保全型	2026	
39	六反目橋	10.40	RC橋	不明	2021	II (3)	予防保全型	2026	主桁（ひび割れ注入工、断面修復工）
40	上六反目橋	6.60	PC橋	1984	2021	I (4)	事後保全型	2026	
41	東逗子橋	10.00	PC橋	不明	2021	I (4)	予防保全型	2026	
42	愛染橋	9.00	鋼橋	不明	2021	III (1)	事後保全型	2026	主桁（当て板補修工、塗装塗替え工）

個別の構造物ごとの事項

NO.	構造物の諸元				直近の点検結果		管理方針	次回点検年度	2024年度～2028年度の対策内容
	橋りょう名	橋長(m)	橋梁形式	竣工年	点検年度	健全性 (対策区分)			
43	みどり橋	7.60	PC橋	不明	2021	I (4)	事後保全型	2026	
44	富士塚橋	12.50	PC橋	2002	2022	I (4)	事後保全型	2027	
45	無名橋 1	6.40	PC橋	1964	2022	I (4)	予防保全型	2027	
46	無名橋 2	2.90	RC橋	1959	2022	I (4)	事後保全型	2027	
47	無名橋 3	4.15	鋼橋	不明	2022	II (3)	予防保全型	2027	主桁・床版（塗装塗替え工）
48	無名橋 4	6.35	PC橋	不明	2022	I (4)	予防保全型	2027	
49	無名橋 5	5.30	PC橋	不明	2022	I (4)	予防保全型	2027	
50	無名橋 6	2.60	RC橋	不明	2022	II (3)	予防保全型	2027	主桁（ひび割れ注入工、断面修復工）
51	無名橋 7	3.40	鋼橋	不明	2022	I (4)	事後保全型	2027	
52	無名橋 8	2.10	RC橋	不明	2022	I (5)	事後保全型	2027	
53	無名橋 9	2.20	RC橋	不明	2022	I (4)	事後保全型	2027	
54	無名橋 10	3.10	RC橋	不明	2022	II (3)	事後保全型	2027	
55	無名橋 11	5.85	RC橋	不明	2022	I (5)	事後保全型	2027	
56	無名橋 12	2.50	RC橋	不明	2022	II (3)	事後保全型	2027	
57	無名橋 13	5.60	RC橋	不明	2022	I (4)	事後保全型	2027	
58	無名橋 14	10.50	PC橋	不明	2022	I (5)	事後保全型	2027	

※補修設計等により対策の内容が変更することもあります。

※定期点検や日常パトロール及び緊急点検などの結果により、対策時期を変更することもあります。